

平成 21 年 1 月 1 日

	<h1>あねん</h1>	KKR 広島記念病院広報誌
		第 12 号
		発行所 〒730-0802
		広島市中区本川町1-4-3
		国家公務員共済組合連合会
		広島記念病院
		☎(082)292-1271

<http://www.kkrhiroshimakinen-hp.org>

年 頭 所 感

平成 21 年 1 月 1 日
病 院 長

「2009 年の新年を迎えて」



新年明けましておめでとうございます。清々しい平成 21 年の年頭にあたり、心から新春のお慶びを申し上げます。昨年は、米国のサブプライムローンの破綻に端を発した金融恐慌が世界に広がり、日本経済にも多くの影響を与え、リストラ等を生じさせ低迷化が進んでいます。また、医療崩壊があちこちで表面化した年でした。

今年は、十二支の「丑」年です。陰陽五行説では、『丑は、陰気が終わり、陽気になり、新しいことを始める年の意味です』米国では、初めての黒人のオバマ大統領が誕生します。彼は“change” “yes, we can”の言葉で“我々皆が自分の手で変えるんだ”と言っています。

日本の医療行政は、さらに厳しい状況に置かれています。当院が所属する連合会病院も 8 割が赤字となっています。こんな時こそ、医療界が一丸となって「医療の質を

上げ」より一層、患者さん本位のきめ細かな医療を進め、信頼と安心を提供していかなくてはならないと感じています。

当院が目指す病院の姿は下記のとおりです。

- ① 地域医療における先進的医療を担った基幹病院（中核病院）であること
 - ② 地域医療支援病院を目指していること
 - ③ 癌支援病院として消化器癌を中心に診療を行っていく上でのよりきめ細かな対応
- また、「質の高い医療情報」を次々と発信し、アピールすることも必要と考えます。今年の研修会等の計画は下記のとおりです。

1月27日（火）CPC（病理検討会） 18：30～
2月12日（木）胃癌術後連携パスについて 18：30～
3月14日（土）第6回がん疾患セミナー 14：30～
4月、褥瘡対策研修会、5月、医療安全対策研修会、6月、地域医療懇談会
7月、がん疾患セミナー、8月、緩和ケア研修会、9月、NST研修会
10月、感染対策研修会、11月、がん疾患セミナー、12月、メンタルヘルス

広島記念病院は、自分達の手で日本の医療をより質の高い医療に変えていくことに「喜び」を感じ、自信と誇りを持って仕事をして行こうと思っています。その努力の結果が患者さんを安心させ、地域の信頼、満足を生むことに繋がります。それが、当院が目指す病院でもあります。

地域の先生方、患者の皆様方に頼りになる病院を目指すとともに、医療界にとって厳しい状況が続きますが、今年が皆様方にとってよい年であるよう祈念致します。

看護次長就任挨拶

看護次長 井上 正子



平成20年8月1日付で看護次長を拝命いたしました。広島記念病院に入職して25年が経ちこのような大役をいただくとは思っておりませんでした。

平本元看護部長が病気で倒れた後も看護部は、一貫して組織強化と質の高い看護師育成を目標に取り組んでまいりました。

医療情勢は厳しくめまぐるしく変わる中、昨年より2交替制勤務を開始しました。職場の意見を聞き、業務改善を行いより良い勤務体制にして行くことや看護教育プログラムも経年別からキャリアダラーシステムに変更したことで、基準作りや評価・運営など試行錯誤しながら、師長主任とともに取り組んでいるところです。

また、地域連携の大切さが言われていますが、看護部として看護師同士の連携を取っていただけらと思っております。微力ではありますが、看護部長を支え看護部がより充実していけるよう力に成れればと思っております。

今後ともご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

医療安全管理室の設置

総括リスクマネージャー 江村陽子



当院における医療安全体制確保のための活動を行い、安全な医療を提供するためには何が必要かを考え、組織横断的に医療安全対策を推進することを目的とし、医療安全管理室が設置されました。平成 20 年 4 月より医療安全管理室を設置し、専従の総括リスクマネージャーを配置しました。

概要

<基本方針>

広島記念病院は、地域中核病院として、患者さんを中心とした安全で質の高い医療を提供するために、病院が一丸となってすべての部門で医療安全文化を構築していくことを目指しています。

<業務内容>

情報の収集と分析

患者様には影響はなかったが、医療事故につながりかねないヒヤリとしたりハッとしたりした事例を、体験した職員が報告し、その原因を分析し改善策の提案を行います。

医療安全に関する体制作り

各職場には医療安全を推進するリスクマネージャーが中心となり、医療安全に関する活動を行っています。また、その担当者が参加する組織横断的な会議を定期的に行き、医療安全に関する情報交換、改善策の周知徹底を図っています。

医療安全管理のための指針やマニュアルの作成・改定

安全な医療・看護の提供をするために規則や手順書を作成、常に現実的かつ合理的なものを話し合いながら見直しを行っています。

医療安全に関する最新情報の把握、情報の共有

他病院における事故事例や提言、院内での事例共有のためニュースレターを発行し、職員に伝達し、当院の医療現場の見直しに役立てています。

医療安全に関する職員教育及び研修の企画と運営

組織全体に共通する安全管理に関する内容について年 2 回程度研修を企画運営、実施し、そのほか部門ごとに必要な安全管理に関する研修を実施しています。

巡回安全点検による実施状況の調査と評価

事例検討から決められた改善策や規則や手順書が、職員に周知徹底され、遵守されているかラウンドを行っています。

多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）に対する超音波凝固切開装置（sono surge^R）を用いた腹腔鏡下卵巣多孔術

広島記念病院 産婦人科
中野 正明



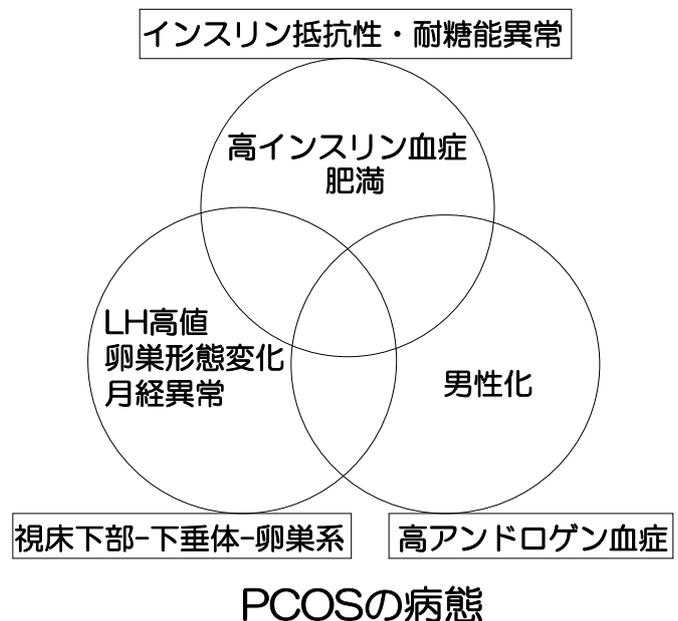
多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）は、卵胞発育障害や排卵障害のために月経の異常や不妊症の原因となる疾患で、外来診察では比較的よく認められる疾患です。原因としては通常、脳下垂体から LH(黄体化ホルモン)と FSH(卵胞刺激ホルモン)が出て卵巣に働き卵胞の発育を促しますが、この PCOS では LH の分泌が増加し FSH とのバランスの乱れが起こることにより卵胞がうまく発育できなくなります。そして排卵が起こらないと排卵をさせようとさらに LH の分泌が増えるため、乱れますますますひどくなるという悪循環に陥ります。

近年、PCOS はインシュリンとの関連も指摘されています。インシュリンとは膵臓から分泌されるホルモンで、グルコースから体にエネルギーが得られるようにするものです。PCOS によりこのメカニズムに影響する細胞ができ、インシュリンの量が増加することによりアンドロゲン（男性ホルモン）が増加し、男性化徴候を認める例もあります。

日本産科婦人科学会が示す PCOS の診断基準は①月経異常、②LH の基礎分泌量が高値で FSH 値は正常範囲、③超音波断層法で多数の卵胞の嚢胞状変化の 3 つの必須項目をすべて満たす症例とされています。しかし LH はパルス状に分泌されているため 1 回の測定では高 LH 血症を見逃してしまう可能性があることや病態の中枢をなす高アンドロゲン血症が含まれていないなどこの診断基準には問題点も指摘されています。

治療の第一選択は簡便で副作用の少ないクエン酸クロミフェン（クロミッド）による排卵誘発となります。初回 50mg/日を月経開始 5 日目から 5 日間投与し、基礎体温および経膈超音波検査で卵胞の発育を観察します。卵胞発育を認めないようであれば 150mg/日まで増量していきます。クエン酸クロミフェン 150mg/日でも卵胞の発育が観察されない場合や排卵に至らない場合は、ゴナドトロピン製剤（FSH 製剤）の使用へとステップアップします。しかしゴナドトロピン製剤による治療は高い排卵率を期待できる反面、注射による連日投与が必要という不便さや合併症として卵巣過剰刺激症候群（OHSS）を発生する危険性や多胎率も上昇します。

薬物療法で排卵に至らない症例や OHSS を合併する症例に対して、有効な治療として腹腔鏡下に行う卵巣多孔術があります。この術式はホルモンバランスの乱れにより硬化した卵巣の被膜を 20ヶ所以上にわたり物理的に穿破するというもので、この方法により卵巣血流の正常化と高 LH および高アンドロゲン血症を改善する効果が認められています。また腹腔鏡下に行うことで比較的侵襲が少なくかつ子宮付属



器周囲の状態や卵管通色素検査にて疎通性の確認も同時に観察できる長所もあります。

さらにこの多孔術を 55, 500Hz の振動周波数でブレードを縦方向に振動させ、組織を振動限界以上に進展させることで切開し、約 63°C の低温で組織の凝固を行うことができる超音波凝固切開装置 (sono surge^R) を用いて行えば、電気メスで施行するより卵巣組織への熱損傷を軽減することができ、またレーザー装置よりも安価でかつ同等の効果が得られるという長所があります。

以前当科にて PCOS に起因する不妊症に対して、超音波凝固切開装置で Hook ブレードを用いて卵巣多孔術を行ない術後の自然排卵率および妊娠率を検討したところ、自然排卵率 76.9%、妊娠率 53.8% と良好な成績を得ることができ、文献で示されたクロミッドやゴナドトロピン製剤を使用した際の排卵率、妊娠率と比べても上回る結果でした。

薬物療法で排卵に至らない患者様や OHSS を合併しやすい患者様がいらっしゃいましたら、一度当院産婦人科にご紹介いただき腹腔鏡下卵巣多孔術を検討させていただければ幸いです。また産婦人科以外の先生方におかれましても、不妊症や月経不順でお困りの患者様がいらっしゃいましたらご紹介いただければと存じます。宜しくお願い致します。

● 広島記念病院 広島市立本川小学校へ

AED (自動体外式除細動器) を寄贈



平成 20 年 7 月 18 日、広島記念病院は、隣接の広島市立本川小学校へ AED (自動体外式除細動器) を寄贈しました。当初は小学校より AED の貸し出しについて依頼を受けていましたが、小学校への寄贈となりました。贈呈式は、小学校の体育館において、終業式前に時間を割いて行われました。中井院長から校長先生へ AED の寄贈後、AED ってなに? といった児童の皆さんに対し、院長はわかりやすく説明され、人の命の大切さまで説かれました。児童の皆さんは、真剣に聞き入っていたように思います。

翌週は AED の使用方法について当院の救命救急士の資格を持つ佐藤真由美看護師長が、小学校に出向き指導しました。児童は大人と体格差、体重が異なるため、通常の蘇生術との違いはどのような? と先生方からの質問もあり熱心に受講されました。AED は万が一の時のためのものですが、寄贈を機会に救命救急について再度確認できたと好評でした。その後、広島市長より礼状も届き地域における救命処置の充実の一助になったと思います。



介護老人保健施設 記念寿行事に KKR ホテル広島総支配人登場



記念寿では、地域の方々のボランティアとしてコーラスグループや演奏活動をされているグループをお招きして、職員が企画・運営をする施設行事を毎月行っています。

平成20年6月18日(水曜日)には「青春思い出コンサート」と題してKKR広島総支配人岡一司氏と同ホテル勤務の川辺悦子さん、迫千月さんで構成された「アシェッツ」(フランス語で皿という意味)によるすばらしい演奏と歌声をお聞かせいただきました。

利用者の方々や職員も思わず口ずさむ姿が見受けられたり、懐かしい歌に涙される利用者がいたり、手拍子が入ったりと、レクレーションの一環としてほのぼのしたひと時を共有することができました。また、歌いながら利用者全員に1輪ずつ季節の花をプレゼントしていただき、感激された利用者も多かったようです。

以前から総支配人を知る職員も、同氏の非凡な才能にただただ感嘆するのみでした。次回も演奏活動に来て頂きますことを利用者全員に約束いただき、コンサートを終了しました。



ニューイヤーコンサート



平成21年1月10日、1階ロビーにて、ニューイヤーコンサートが開催されました。

今年で3回目となる沖田孝司・千春ご夫妻による演奏です。春夏秋冬をめぐる懐かしい歌や、「千の風になって」「上を向いて歩こう」「ユーモレスク」など、ヴィオラとエレクトーンのやさしい音色で演奏していただきました。また、沖田さんご自身が作曲された「伝えよう笑顔と心」も披露され、観客も

一緒になって、手話を交えつつ合唱となり、とても楽しい時間を過ごしました。

患者様の中には、車椅子や、ベッドに乗った状態で演奏を聴きにいられている方もおられ、病状の影響で最後まで聴くことができなかった方もおられました。しかし、途中涙を流したり、口ずさんだりと、みなさんひとりひとりの気持ちに響く、とてもいい演奏会となりました。』

企画委員会



放射線研修会報告

平成20年12月17日6時30分～当院講義室において、「MRI 拡散強調像の有用性について」と題した研修会を開催しました。

当院放射線科医長 小林昌幸医師が、造影・T1強調・T2強調・拡散強調などの画像を用いた種々の症例における有用性の比較、拡散強調像とFDG-PETやPET-CTとの比較、当院での撮像法などについて講演を行いました。

なかでも、拡散強調像とFDG-PETやPET-CTとの比較では、それぞれの適応の疾患、がん検診としての有用性などの比較についてお話があり、とても興味深い内容でした。

講演後には、活発な質疑応答がなされ、とても有意義な研修会となりました。

今回の研修会には、連携医療機関の先生方・放射線技師の方など、院外からも9名の先生方にご参加いただきました。

今後も、連携医療機関の皆様の関心のある内容の研修会・セミナーを計画していきたいと思っております。



地域医療連携支援室

全職員対象 救急蘇生&AED 研修会



当院では患者様に安全な医療を提供するために全職員を対象に、組織全体に共通する安全管理に関する研修会を行っています。その中で、昨年から今年にかけて救急蘇生とAED (automated external defibrillator) の取り扱いについての研修を行いました。医師、看護師にとっては必要な知識と技術ですが、改めて復習し「忘れていたが再確認できた」という声が多く聞かれました。また、その他の職員の方からも実際に「AEDを触ってみて自信がついた。」という声や、「救急の場面ではたくさんの

人の手があること、あまり知識のない人でも手伝えることがたくさんあることがわかりました」という声を頂き、研修効果も高く好評でした。研修会では日ごろかかわることのない部署の方々との交流の場にもなり楽しく研修をすることができました。

今後も今回の救急蘇生研修を続け、全職員が院内だけでなく、救急蘇生の必要な方がおられた時は真っ先に声をかけることができるようになりたいと思っております。



平成20年12月～2月まで
医療安全管理室

広島記念病院での外科研修を終えて（H20.10.1～11.30）

研修医 板東愛梨



私は、平成20年10、11月の2ヶ月間外科研修をさせていただきました。記念病院では大学病院の研修とは違い色々経験できると聞いていたので楽しみにしていました。外科系に興味はあったものの、ほとんど知識のないまま研修は始まりました。はじめ自分は何をしたらいいのか全く分からず、ただ言われた事を淡々とこなすだけの日々が続きました。しかし少しずつではありましたが自分が何を勉強したらいいのか分かるようになり毎日さらに楽しく過ごせるようになりました。

もともと手術にはいるのは好きでしたが、実際きちんと勉強したことはありませんでした。初歩的なこと、特に血管・リンパ節などの解剖から勉強し、術前検査による術式の決定、そしてその手術で自分がどのような役割をしたらよいか考えて手術に臨むようになってさらに手術のおもしろさが分かったような気がします。また、術前・術後の化学療法や疼痛コントロールについて外科的な視点で勉強できたのは貴重な経験でした。外科的な手技以外にも手術のたびに気管挿管をさせてもらえたことは本当によかったと思います。かなり自信がつかしました。様々な経験していくうちに学生時に抱いていた外科のイメージが変わりました。

また手術中怖い思いをすることもありました。そういうことがあると、医師は人の命を扱う責任の重い仕事なのだということを再認識し、身のひきしまる思いでした。このような思いをするのも自分が手術をはじめ治療に深く関わらせてもらえているからこそだと思いました。

このように2ヶ月間毎日楽しく研修できたのも、厳しくかつ丁寧に指導して下さり色々な手技をさせてくださった先生方をはじめ、あたたかく接して下さったスタッフの皆さんのおかげだと思っています。記念病院で学んだ事を今後の研修でもいかして医師として成長していきたいと思っています。

2ヶ月間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。

広島記念病院での研修 (6/1~7/31)

研修医：音成 秀一郎



六月の梅雨入りと共に始まった記念病院の研修もあっという間に終了し、気付けば八月の暑い日差しの毎日です。2ヶ月間という期間をこれほど短く感じた事は他になかったかと思えます。

記念病院は私の住まいから自転車で約30分かかるところにあり、今思えば毎朝の通勤が大変でした。特に最初の2、3週間は何をどうしていいのかも分からず、帰宅してその日の復習をする体力も残っていないような状況でした。このまま何も修得できないまま2か月が過ぎ去っていくのかな、という不安もありました。このような時期に何とか頑張れたのも周囲のスタッフの皆さんの

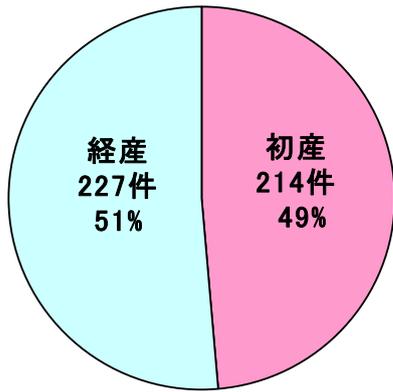
のお蔭であると改めて実感しております。外科の先生方は一見すると怖い印象も持ってしましますが、どんな質問でも真剣に答えていただけましたし、手術中の操作に関しても丁寧に説明いただきました。特に私の場合、覚えが悪く集中力もなかったため手術進行の妨害もしてしまった事も多々ありました。もちろん、叱られた事もあります。ですがその後には、その説明やフォローをして頂き怒られ甲斐があると私は感じました。

そうこうすると1ヶ月が過ぎ、やるべき事、やってはいけない事などを把握できるようになり、仕事も楽しくなってきました。私の担当をしていただいた二人の先生方は、診察・手技・処方など私に経験させて頂き、大学病院の研修ではなかなか経験できないような手技も出来ました。具体的には、挿管・末梢ルート確保・中心静脈穿刺・血ガス・皮膚縫合などあり、特に挿管に関しては毎日施行したので自信が付きました。

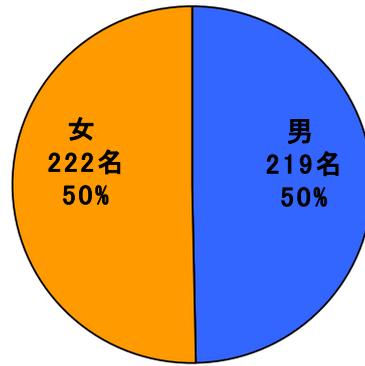
学生の頃から大学の医療のみを見てきた私にとって、大学の医療が普通なのであろうという錯覚を持っていました。同じ考えを持つ学生は沢山いると思えます。その点においても、記念病院で研修をして見てよかったと思えます。医療器具や薬品の種類は当然違いますし、医療費の無駄づかいはできません。大学にいとそのような配慮が軽薄になりがちです。高齢化社会の到来と共に危惧された医療費の限度。私たちがよりより診療を行っていくためにも、スタッフ全員で考えていかねばならない問題であると、改めて痛感しました。

わずか二ヶ月間ではありましたが、御世話になりました。

H19年 分娩数

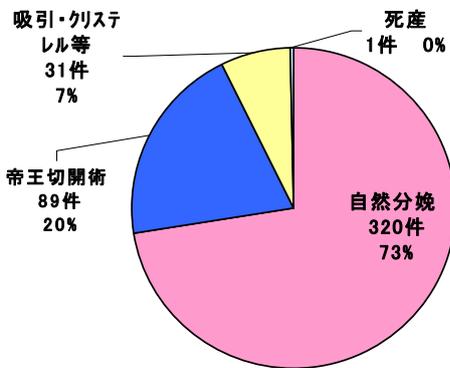


H19年 出生数(男女比)



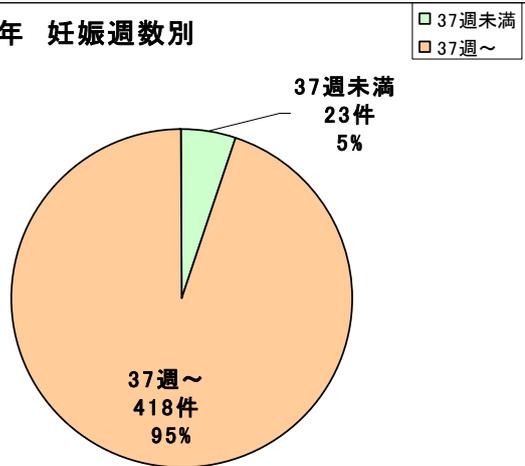
N=441

H19年 分娩の種類



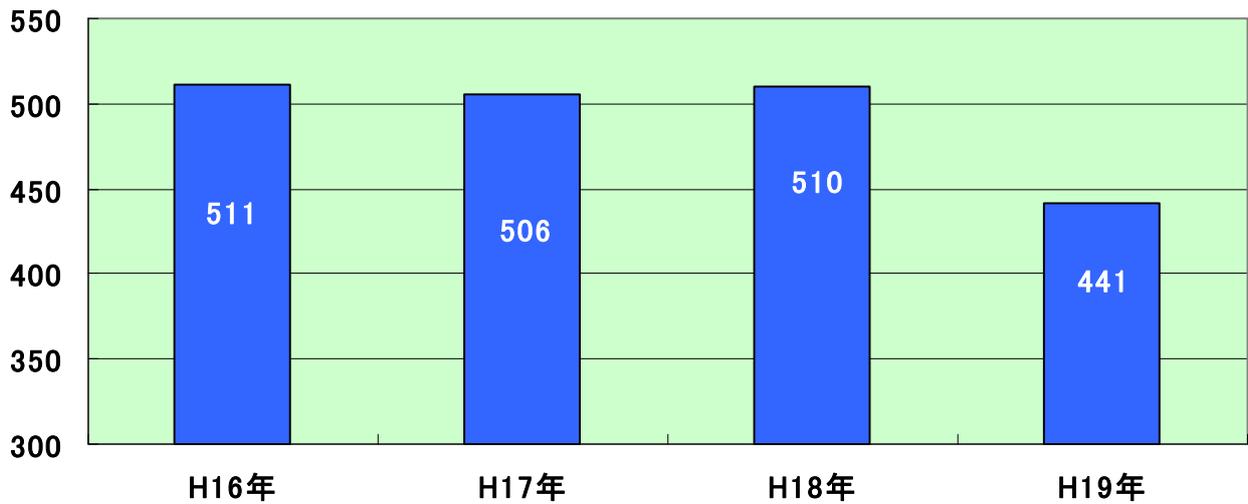
N=441

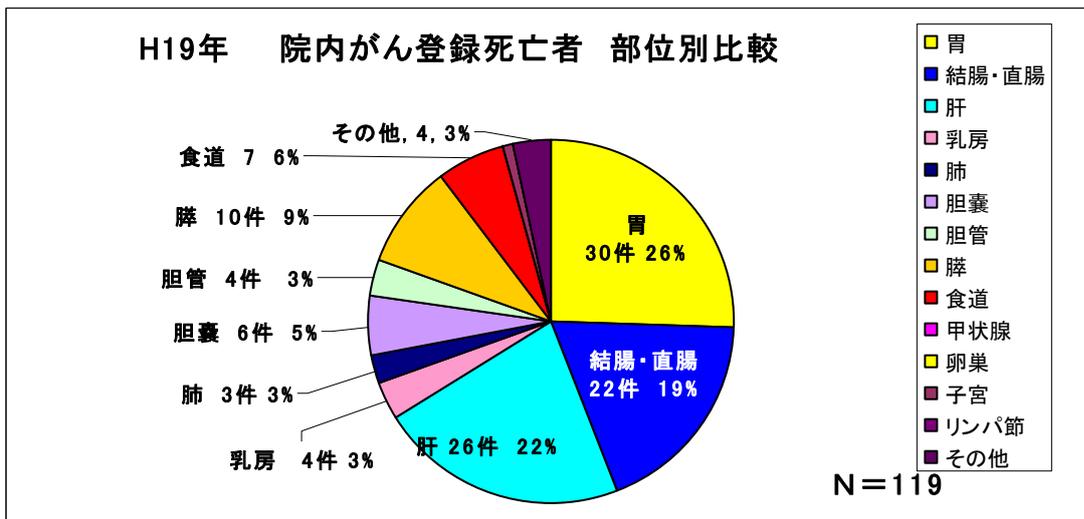
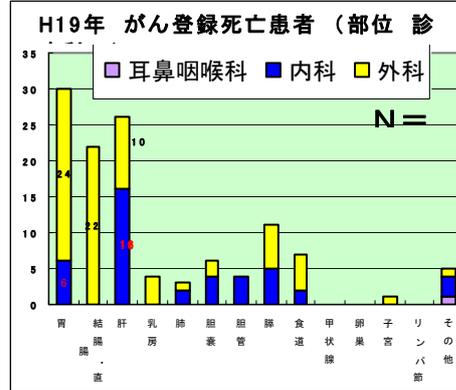
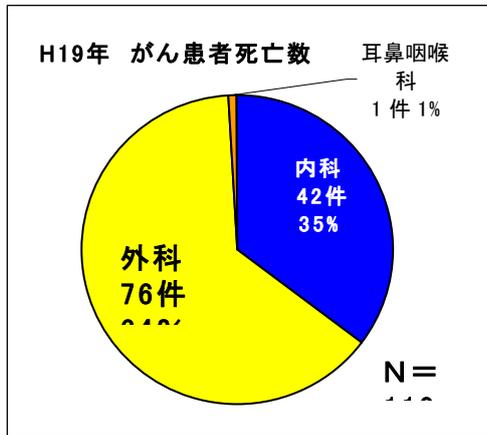
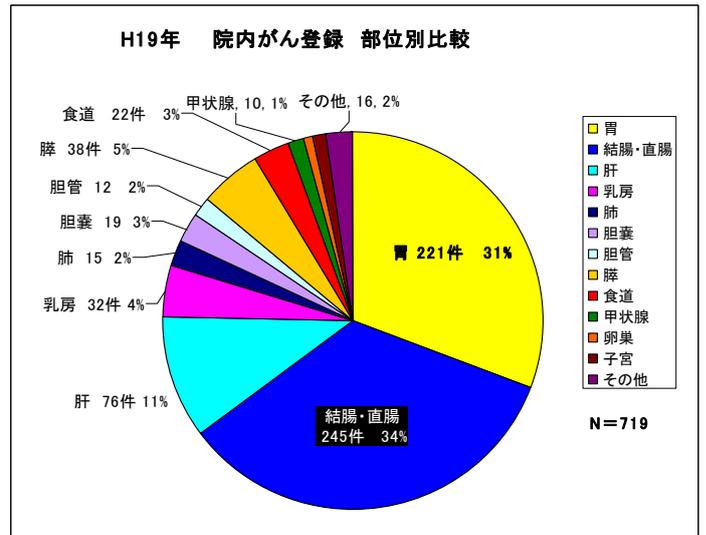
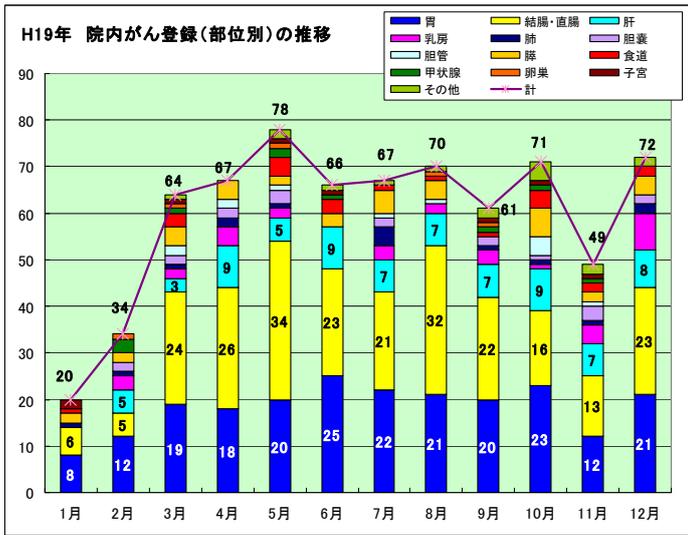
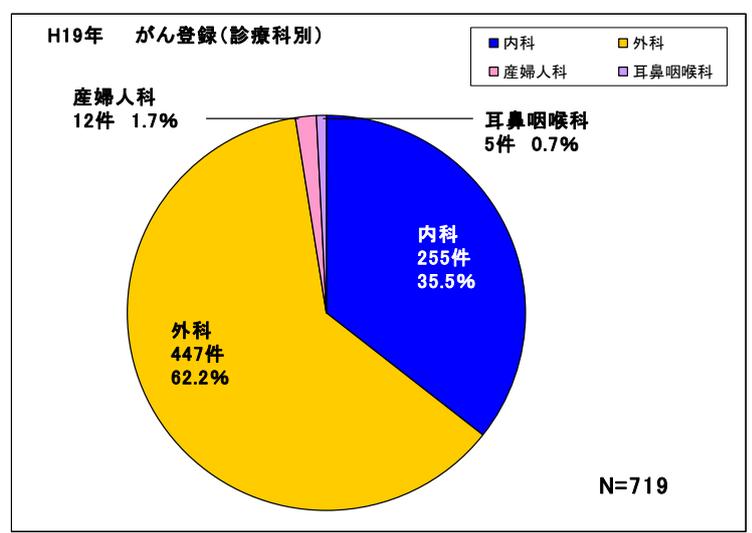
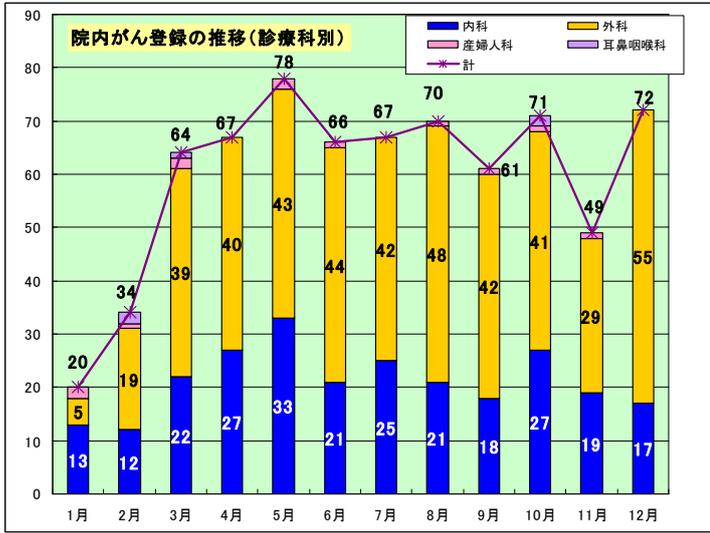
H19年 妊娠週数別



N=441

分娩数の推移





広島記念病院の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」について

病院のこころ、職員の姿勢を伝えることを意とし、平成10年6月病院建替え完成と同時に、下記の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」を制定いたしました。患者の皆様やその関係者の方々等広くお知らせするため、病院玄関より各階すべてに掲示しております。日々の仕事のなかで実現できるよう努力しております。

理 念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

憲 章

1. 私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2. 私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3. 私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4. 私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

患者様の権利の尊重

- ◆ 患者様の人間としての尊厳を尊重し秘密を守ります。
- ◆ インフォームドコンセント（良く納得された上での合意）を基盤とし、信頼関係を確立します。
- ◆ 各科の有機的な連携を図り、高次で専門的な総合医療を行います。
- ◆ 癒しの心を持った、接遇、ケアを行います。
- ◆ 癒しの心を持った、入院環境、アメニティーの整備を心がけます。

地域医療連携室

TEL 082 (503) 1003

FAX 082 (503) 1010

代表 広島記念病院

TEL 082 (292) 1271

FAX 082 (292) 8175

庶務課

TEL 082 (503) 1001

内科・外科

FAX 082 (503) 0722

産婦人科・小児科

FAX 082 (503) 0723

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082 (503) 0731

4病棟

FAX 082 (503) 1014

5病棟

FAX 082 (503) 1015

6病棟

FAX 082 (503) 1016

7病棟

FAX 082 (503) 1017

8病棟

FAX 082 (503) 1018